

肥を組み合わせるのが最もよい肥料のやり方です。高度化成肥料といって成分のパーセントが高いのは鉢物には強すぎるので使わないのが無難です。

鉢を汚すそう（藻）類の防ぎ方

素焼鉢では新しい鉢を使っても1〜2ヵ月たちますと表面に青ゴケが生え、美観を損ねるし、また触るとぬるぬるして手を汚します。これはそう類が生えるためです。これの防ぎ方としては新しい素焼鉢をリニュロンまたはダイセンステンレスの薬液の中に一度浸してから使えばよいのです。リニュロン（商品名はアフロンまたはロックスといい、除草剤として市販）を千倍または2,000倍位の水にとかけて作った溶液をパケツなどに入れ、素焼鉢を2分間位浸してから取出して乾かせばよいのです。数日乾かせばすぐに花を植えても大丈夫です。ダイ

センステンレス（花の殺菌剤として市販）は200倍に水でうすめ同様に使います。どちらも青ゴケ防止には大変よく、しかも長く効き、大体3ヵ月ないし半年位はこけがほとんど生えてきません。リニュロンの方がききめは長続きするようです。除草剤なので作物に害があるかと心配になりますが、いくつかの花で試験をしたところでは大丈夫です。古い鉢を使う場合はいったんよく鉢をタワシなどで洗って乾かしてからこの薬剤を使って下さい。なおナフテン酸銅という薬剤も大変効果がありますがかなり高価です。いずれにしてもびっくりする程効果があり、素焼鉢のまま室内に飾ることができます。

以上ごく簡単に鉢物の取扱い方についてお話しましたが、たとえ花屋さんから買って来たものでも育ててみれば愛情がわいてきます。そして愛情があれば大いのことばはうまくいくものだと思います。

ネクタリンの栽培

農林省園芸試験場 吉田雅夫

1 はじめに

ここ数年、果樹の種類・品種に関する問い合わせが目立つようになってきた。以前はせん定の方法や病虫害防除の方法など技術的な質問が多かったのに対して興味ある傾向である。これは農家の技術的レベルが向上したこともあろうが、米作転換をはじめとする農政の不安定さが栽培農家に種類・品種に対する関心呼びおこしたのであろう。特に果樹はリンゴ、ミカンなど生産量があがってきて量から質の段階に移りつつある。これに貿易の自由化がからんで果物戦争は一段と激化してきた。ミカン地帯やリンゴ地帯から核果類やブドウの問い合わせがふえてきたのもこのへんの事情が反映しているのであろう。一方、都市化の波は多くの府県に及び、小面積でも収益のあがる果樹が以前にも増して要望されるようになってきた。こういう背景のもとに登場を期待されているのがネクタリンであろう。しかし、ネクタリンがどういうものであるかよく理解している人は少ないと思う。ここではネクタリンの特質を述べるとともに生産から消費にいたる問題点を示して、ネクタリンの経営の中に取り入れたいと考えている人の参考としたい。

2 ネクタリンの特性

ネクタリンは果皮に毛がないためにスモモの一種と間違えられやすいが、無毛の点を除けばまったくモモと同じである。普通樹だけを見たらモモとネクタリンの区別はつかないであろう。

ネクタリンは果実の表面がすべすべしているため油桃、裸桃、椿桃、ズバイモモなどと呼ばれる。昔から北陸や東北地方の一部で栽培されていたが、これらは品質的に劣るため産業的にはみるべきものはなかった。現在栽培されているものは明治以後欧米から導入された品種で品質はすぐれているが栽培性と商品性にいくつかの欠点を持っている。特に欧州系の性質を強くもっている品種は病気に弱く、夏期雨の多いところでは栽培が難しく、産地も限られる。また、日持ち性も不良で市場に近いところでしか栽培できないものが多い。しかし、近年アメリカで発表されている品種群はモモとネクタリンの交雑によって育成されたもので、栽培性と商品性がかなり改良されているという。わが国での栽培試験はまだあまり行なわれていないので、その適否はよくわからない。

ネクタリンを果物として、あるいは果樹として総括し

てみると

- ネクタリンは夏の果物である。特に真夏の果物として価値がある。
- 外観が美しく、個性的な果物である。外観はプラムと間違えられやすいがネクタリンはネクタリンである。
- 風味濃厚な果物である。水蜜桃より酸味が多く、甘味も香りもあるので風味濃厚である。
- 日持ち性がやや劣るので流通上特別考慮すべき果物である。
- 夏半期雨の少ないところに適する果樹である。
- 集約的な栽培管理を要する果樹である。
- 今後品種改良が必要な果樹である。

3 おもな品種とその特性

(1) 白肉種

葉籬，弥次衛門，大長油桃などわが国在来のズバイモ

第1表 白肉種の特性

品 種 名	熟 期	外 観	品 質
John Rivers	中 生	小果，着色良	酸多，日持不良
Qvetta	〃	〃 〃	〃 〃 肉質不良
Siluer Lode	〃	〃 〃	〃 〃
Gower	中晩生	〃 〃	〃 〃
福陽ネクタリン	〃	〃 〃	〃 〃
葉 籬	〃	〃 着色不良，裂果	〃 〃 肉質不良
強次衛門	〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃
大長油桃	〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃
Goldmine	晩 生	〃 着色良	甘味多，日持きわめて不良
Victoria	極晩生	着色不良	風味濃厚，日持不良
Stanwick	〃	〃 裂果多	果汁少，風味濃厚

モと呼ばれている仲間はいずれも白肉で，果皮が粗く，裂果するものが多い。果実は小さく，品質も劣るので商品性は低い。明治以後導入された品種も白肉のものは果実が小さく，日持ち性も不良で，奨励できるものほどで

第2表 黄肉種の特性

品 種 名	熟 期	外 観	品 質
倉方早生ネクタリン	中 生	小果	酸多，日持不良
相 興	〃	着色不良	酸多，肉質厚く，果汁少
水野ネクタリン	〃	着色中	〃 日持不良
Stsrk Early Flame	〃	小果	〃 甘味多，日持やや不良
Phillips	〃	〃	〃
興 津	中晩生	大果，着色中，裂果や多	風味濃厚，日持不良
NJN 17	〃	大果，着色良好	酸やや多，肉質良好，日持良好
Hunter	晩 生	小果，着色やや不良	品質良好，日持不良
Fire globe	〃	〃 着色良	〃 〃
Pioneer	〃	〃 〃	〃 〃
秀 峰	極晩生	大果，着色中	〃 酸やや少，粘核，日持良好

んどない。

(2) 黄肉種

戦後導入された品種には黄肉種が多いが，1956年以前に導入されたものは欧州系の性質が強いため，栽培性と商品性に問題のあるものが多い。わが国の主要品種である興津は大正6年に谷川利善氏がブレコース・ド・クロンセルにロードナピアを交配して育成したもので，古い品種の中では果実が大きく品質も良好である。ただ黒星病に弱く，裂果しやすいことと日持ち性が不良なことが欠点とされている。しかし中生と晩生の中間に熟する品種であり，寒い地方で栽培しても品質がよいので価値がある。興津より早生のネクタリンとしては相興や倉方早生ネクタリンなどが栽培されているが，品質は興津よりも劣る。興津以後の品種としては戦後ニュージャージーから導入された NJN 17 が黒星病に強く裂果せず，大果で日持ち性もすぐれるので注目されている。しかし，

収量がやや少ないことと寒い地方で栽培すると酸味が強過ぎて品質が不良になるといわれている。極晩生種としては最近長野県の曾根悦夫氏が発表した秀峰がある。この品種は樹性，果実ともにカリフォルニアの品種とよく似た性質を示し，果実は大果で，日持ち性がすぐれている。長野県では9月下旬に熟するので，栽培適地は比較的限られるの

はないかと思われる。

(3) アメリカにおける主要品種

1950年以前のアメリカではネクタリン栽培は産業的に大したものではなかったが，品種改良の成果により1955年ごろより生産が急速に増加し，今日では離核の生食用モモと肩を並べるほどに重要なものになっている。最近発表された品種はいずれも大果で着色が良く，日持ち性も良好である。熟期は6月から9月にいたる4ヵ月間にわたり市場でも重要な位置を占めているようである。品種を大別すると乾燥気候に適するカリフォルニアの品種群，病気に比

第3表 アメリカの新品種

栽培地域	品 種
東部(ニュージャージー、バージニア、ニューヨークなど)	Nectared 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10. cherokee, Lafayette Pocahontas, New Yorker, Morton など
西部(主としてカリフォルニア)	Early Sun Grand, Red June, May Grand, Moon Grand, Independence, Early Le Grand, Granderli, Star Grand, stard Grand II, Sun Grand, Fantasia, Flavortop, Red Grand, Le Grand, Late Le Grand, Regal Grand, Autumn Grand, Flamekist, September Grand など
南部(フロリダなど)	Sun red, Sun gold など

較的強い東部の品種群、低温が不足しても栽培可能な南部の品種群である。特にカリフォルニアの品種群はリグランドシリーズとして知られ産業的にも大きな役割を果たしているようである。しかし、これらの品種が日本の気候風土に適するかどうかは全く不明で、夏期湿潤なわが国では病気の問題もあり、栽培の難しさが予測される。

4 栽培上注意すべき点

ネクタリンの栽培管理はモモと大体同じでよい。ただ果実に毛がないだけ病虫の被害を受けやすいので病虫害防除などはいねいに行なわなければならないだろう。主な栽培管理について注意すべき点を述べてみる。

(1) 整枝・せん定

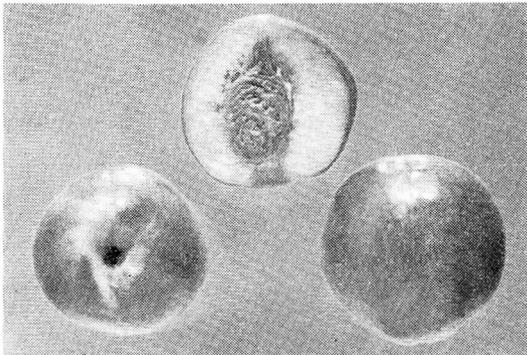
ネクタリンの多くは欧州系の樹性を示すので、かん詰用モモのせん定と同じような点に注意する。すなわち、単芽の着生が多いので間引きせん定を主体に行ない、できるだけ枝数を多く残す。特に若木のうちは樹勢がおう盛なので気を付ける。成木になって結実が安定してくれば、普通のモモと同じようにせん定してもかまわない。直立性の樹姿を示す品種は、できるだけ枝が開張するように心がけ、果実の着色をよくしてやる。

(2) 摘果と袋掛け

摘果はできるだけ早く行なう方が効果は大きいですが、生理的落果の性質が強い品種はあまり早く摘果すると危険

である。特に5月下旬から6月にかけて落果しやすい品種は少し弱目に摘果することである。また、花芽の着生の少ない NJN 17 などは袋掛け時に軽く摘果するだけで済むことがある。ネクタリンは果実の着色が良好なものは商品性が高いので、着色しやすいような果実を残すとよい。量よりも質に重点を置かなければならないので摘果はていねいに行なって、くず果を減らすようにすることが大切である。

袋掛けは絶対不可欠の作業ではないが、中晩生から晩生の品種は病虫の被害を受けやすいので、袋掛けをした方がよい場合が多い。特に西日本など暖地では夜蛾の被害がひどいので袋掛けが省けないであろう。夜蛾のほかコガネムシ、アリ、ハチなどの昆虫類やムクドリなど鳥



ネクタリンの果実



ネクタリンの樹

類の被害を受けやすい所では袋掛けをした方がよいと思う。また黒星病による裂果を防ぐのにも袋掛けが効果をあげている。袋掛けは以上のような病虫害防除に効果をあげているばかりでなく、着色を良好にし、熟期を促進する上でも効果をあげている。袋掛けに用いる袋は青ナシ用のパラフィン袋が適当と思う。パラフィン袋は光の透過がよい上に丈夫なので収穫するまで除袋の必要がない。長野県の一部ではポリ袋を使用しているとの話を聞くが取り扱いが難しいのですすめられない。

(3) 施肥

モモと大体同じだが、品質を良好にするためには窒素肥料をあまり多量に施さないように注意する。樹勢を強くしすぎると果実の着色が不良になるばかりでなく、酸味も多くなって品質が低下する。さらに花芽の着生や生理的落果にも影響するので樹勢を落着けるよう肥培管理に注意する。

(4) 収穫

まず早取りしないこと。ネクタリンは着色が良いことと日持ち性が不良なことからどうしても未熟のうちに収穫する傾向がある。酸味が強過ぎたり、肉質が粗くなったりするとネクタリンの長所は消失して、短所ばかりが出てしまう。果実はできるだけ熟してから収穫し、収穫から消費に至るまでの問題を改善することに努力を注ぐべきだと思う。果実はいねいに扱い、早く消費者に渡るようにしたい。

(5) 病虫害防除

欧州系の品種は炭疽病、黒星病など病気に弱いものが多いので注意する。単芽の着生が多く、葉芽が枝の先端と基部にしかないものはナシヒメシンクイムシなどの被害にあわないように殺虫剤を散布する。果皮に毛がないため幼果期に虫の被害を受けやすいがこれも同様である。西日本の一部では夜蛾の被害を防ぐためネット栽培を試みているようだが、その成果が期待される。他はモモの場合と全く同じに考えてよい。

5 流通、販売上注意すべき点

消費者の多くはネクタリンがどういう果物かよく知らないと思う。したがってネクタリンが将来伸びるかどうかは消費者にどのように宣伝して品質のよいものを供給していくかにかかっているといても過言ではない。そのためには、現在のモモやスモモのような流通方法を改める必要がある。着色がよくて、大玉であればよいモモ、ダンボール箱にバックなしでつめ込んで出荷しているスモモ、いずれも果物本来の品質よりは、外観と輸送性に重点が置かれすぎている。このような流通方法をとっていればネクタリンはすぐに消費者から敬遠されるであら

う。外観は赤くてきれいだが、すっぱすぎてたべられないということになれば、ネクタリンブームなどたちまちどこかへふっとんでしまう。沿道直売でもよい、スーパーマーケットの直売でもよい、生産者から消費者へ、最高品質の果実が流れていくような、そういう流通形態が検討されねばならない。色がきれいで大きければよい、共選場で扱えて輸送性があればよいということが最も重要視されるならば、それを皆で改革していかなければならない。

6 今後の問題

ネクタリンは将来性のある果樹といわれているが、それはあくまでも可能性の問題で、将来産業的に価値のあるものになるかどうかは全く予測できない。それをもし可能にするとしたら、次のような問題が解決されなければならないだろう。

- (1) ネクタリン協会の設立。生産から消費にわたって指導できるような組織が必要である。ネクタリンのように生食主体の夏の果物は需要と供給、生産量と消費量がよくつかまれていないと経営上不安定になるであろう。
- (2) 優良品種の育成と普及。歴史の浅い果樹で、産業的にもあまり評価されていなかったので品種改良がおくれている。したがってこれなら絶対といえるような主幹品種がないので、比較的欠点の少ない品種を早急に育成しなければならない。
- (3) 地域適応試験の充実。ネクタリンはごく限られた地域でしか栽培されていないので、栽培の適否を論ずることが難しい。わが国は気候も地形も複雑なので各地で栽培試験が行なわれる必要がある。
- (4) 流通機構の改革。日持ち性の悪い果物は流通過程を再検討する必要がある。
- (5) 利用、加工の研究。生食以外の利用法、特に傷害果などのネクター利用を考える。さらに低温貯蔵についても検討する必要がある。
- (6) 消費者教育の推進。うまい果物を、安価に供給し、消費者に購買させるには、消費者に果物教育を十分施さなければならない。どういう果物がうまいか、どういう食べ方をすればよいか、もっと啓蒙する必要がある。

以上、今後研究しなければならない問題点を示してみた。